

ベトナムの経済成長状況および6月の注目ニュース

とちぎベトナムサポートハブ

(運営：ONE-VALUE 株式会社)

2024年6月

I. はじめに

ベトナム・ハノイ市に開設された、とちぎベトナムサポートハブ（愛称：とちぎハブ）より、毎月ベトナム現地の最新情報をお届けいたします。今回のテーマは前月号でのベトナムの政治体制に続いて、経済成長(GDP)についての紹介です。その他、今月（6月）の注目ニュースをお伝えいたします。

II. 急速な経済成長を遂げるベトナム

➤ 10年後には2倍になる？ベトナムのGDP事情

ベトナムは近年急速な経済成長を遂げている国として注目されています。表はベトナムの1人当たりのGDPとその成長率の推移を示しています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で成長率が落ちた2020年～2021年を除き、平均で7%弱の成長率を示しています。7%という数字は、10年後にはその国のGDPが2倍に増えていることを意味します。このまま高い経済成長率を維持し、10年後のGDPは現在の2倍になっているのか、或いは成長が鈍化し2倍とまではいかないのか注目されるところです。



1人当たりのGDP、及びGDP成長率

➤ **実際の収入はもっと高い？**

しかし、副業が盛んなベトナムでは、実際の GDP はさらに高いと言われます。ベトナム労働法では原則として労働者による副業・兼業は禁止されていません。副業から得る収入のほうが正規の職より高い人もいます。副業は 家庭教師、不動産、家政婦、路上での物売り、Facebook 上での売買など、実に様々です。これら副業による収入の多くは政府も把握しておらず、統計データには反映されていません。ベトナムの GDP は統計上のデータからは正確に推し量れず、これを鵜呑みにすると、ベトナム市場のポテンシャルを過小評価してしまう危険性があります。

このように、ベトナムにおける統計データは、必ずしも現状を正確に反映しているとはいえない場合もあります。また、調べたい統計データが存在しないこともあります。そのため、ベトナムでの市場調査は、統計データのみならず、消費者への定量調査やデプスインタビュー、企業や有識者へのインタビュー等を通じて、1 次情報を取得することが重要です。取得した 1 次情報を様々な手法で分析することで、より精度の高い知見を得ることができるようになります。

III.【6月注目ニュース】

➤ **日本の留学経験者が副首相に**

6月6日、ベトナム国会は司法相のレ・ティン・ロン氏(61歳)を副首相に任命することに批准しました。ロン氏は北中部地方タインホア省の出身。党中央執行委員第12、13期共産党大会(2016年-2026年)のメンバーで、第14、15期国会議員(2016年-2026年)。1987年に旧ソ連のアデクバイジャン総合大学で法学士号を取得後、ベトナム法務省国際協力局としてのキャリアをスタートさせ、ハティン省共産党委員会副書記、司法相などを歴任しました。その間1999年～2003年には、独立行政法人国際協力機構(JICA)の奨学金を受け、名古屋大学大学院法学研究科博士課程で学び、法学博士を取得しています。日本留学後は、ベトナムに戻ってからも、来日の機会があれば、欠かさず名古屋を訪問されているそうです。

➤ **Time 誌の「最も影響のある 100 社」にビンファスト(Vinfast)が選出**

米国のニュース雑誌 TIME 誌が 2021 年から毎年特集を組んでいる「世界に最も影響を与えた企業 100 社」に、2024 年はビンファストが初めてベトナムの自動車メーカーから選出されました。ビンファストは、ベトナム最大の複合企業体であるビンググループが 2017 年に立ち上げたベトナム初の国産自動車メーカーで、EV（電気自動車）の開発に力を入れています。TIME 誌で、ビンファストは自動車製造事業に参入してから 2 年でベトナムに EV 工場を建設し稼働させたことや、従来のビジネスモデルに挑戦し、この業界を変える可能性のある革新的な方法や技術を導入している企業として紹介されています。日本からはトヨタ、日本製鉄、エーザイの 3 社が選ばれています。

とちぎベトナムサポートハブ

<所在地>14F, Viet A Building, No.09 Duy Tan, Cau Giay, Hanoi, Vietnam

HP: <https://onevalue.jp/>